

自己評価報告書 学校関係者評価報告書

(令和元年度)

愛知産業大学三河高等学校
通信制課程 単位制

目 次

I	学校概要	1
II	教育目標	
	(1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神	2
	(2) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程(単位制)の教育目標	2
	(3) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程(単位制)の教育指導方針	2
III	重点目標の達成及び改善方策	
	(1) 学習指導	3
	(2) 生活指導	4
	(3) 進路指導	5
	(4) 生徒相談	5
	(5) 生徒募集	6
	(6) 総 務	7
	(7) 校 務	8
	(8) 事 務	8
IV	本年度の具体的な取り組み	9
V	来年度の具体的な取り組み予定	9
VI	重点目標の達成に対する考察	10
VII	生徒アンケート結果の総合考察	10
VIII	保護者アンケート結果の総合考察	10
IX	今後の方向性	11
	生徒アンケート 集計結果	
	保護者アンケート 集計結果	

I 学校の概要

(1) 学校名

愛知産業大学三河高等学校

(2) 課程

通信制課程

(3) 所在地

〒444-3523

愛知県岡崎市藤川町西川向1-20

TEL: 0564-48-5230 FAX: 0564-48-8775

ホームページ: <http://asu-mikawa-tani.jp>

(4) 沿革

昭和58年 三河高等学校の創立が認可され、校舎を岡崎市字原山12番地の10に置く。

昭和58年 三河高等学校を開設。全日制課程の普通科と電気科を置く。

昭和60年 三河高等学校の全日制課程に情報処理科と通信制課程を設置する。

平成3年 愛知産業大学の設置が認可され、校舎を岡崎市字原山12番地の5に置く。

平成7年 三河高等学校の校名を愛知産業大学三河高等学校に改称する。

平成10年 愛知産業大学三河高等学校に単位制（普通科）を設置する。

平成16年 愛知産業大学三河高等学校の単位制新校舎が完成。

(5) 通信制課程の構成

学年制の生徒が在籍する技能連携校（専門学校高等課程）と本校独自の単位制で構成されている。

学年制には、普通科・商業科があり技能連携を結ぶことによって、専門学校の単位を本校の単位として認定、年回3回のスクーリングを本校で行い高等学校卒業資格を与えることができる。

本校単位制普通科には、2つのコース（午前コース・午後コース）を設けている。また、午後コースは少人数制授業（10人前後）を行っている。通学型通信制で大学生のように自分で選んだ授業を受講し、3年間で74単位取得することで通信制の卒業資格を得ることができる。

(6) 技能連携校

名古屋情報専門学校 高等課程

あいちビジネス専門学校 高等課程

西尾高等家政専門学校 高等課程

名古屋調理師専門学校

専修学校東洋調理技術学院
 豊橋ファッション・ビジネス専門学校
 大岡学園ファッション文化専門学校

(7) 技能連携校の学科構成

名古屋情報専門学校 高等課程	普通科 商業科
あいちビジネス専門学校 高等課程	普通科
西尾高等家政専門学校 高等課程	普通科
名古屋調理師専門学校	普通科
専修学校東洋調理技術学院	普通科
豊橋ファッション・ビジネス専門学校	普通科
大岡学園ファッション文化専門学校	普通科

※名古屋情報専門学校は平成31年度より商業科より普通科へ変更。
 現在1年生のみ普通科。

(8) 生徒数及び教職員数（令和元年5月1日現在）

	単位制普通科		連携校普通科		連携校商業科		計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
1年生	31	21	364	122	0	0	538
2年生	56	32	112	78	243	26	547
3年生	59	64	113	69	213	25	543
計	146	117	589	269	456	51	1628

教職員数13名(兼務含む) 校長(兼務) 教頭 教員7名 兼任教員1名
 精神保健福祉士1名(兼任) 事務職員2名

II 教育目標

(1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神

豊かな知性と誠実な心を持ち 社会に貢献できる人材を育成する

(2) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程（単位制）の教育目標

本校通信制課程単位制は、転学希望生徒や高校中退生徒の再チャレンジの場として、また不登校気味中高生の成長の場として、高校卒業資格の取得を第一目標に指導している。また、卒業後の進路指導についても力を入れている。

(3) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程（単位制）の教育指導方針

単位制の多くは、中学校時に不登校であった生徒、他の高等学校からの転入学生、学び直しを希望する編入学生である。個性豊かでいろいろな問題を抱えているが、その目標は「高等学校卒業」である。その希望に応えるため、家庭との連絡を密にして意欲と自覚を促し、単位取得と退学防止をはかる。また、わかりやすい学習指導、進路指導、悩み相談を行い、将来のために次のステージへつなげる。

Ⅲ 重点目標の達成及び改善方策

① 評価方法

各重点項目に対して、1点から3点で評価する。

良い …… 3点 普通 …… 2点 悪い …… 1点
 どちらでもない …… 評価しない

② 評価対象者

本校通信制専任教職員 8名

(1) 学習指導 平均 2.8 (昨年度2.9)

重点目標	教員評価	
	R1	H30
① 各科目の単位修得率を向上させる努力をする。	2.8	3.0
② 生徒の基礎学力向上に努める。	2.8	2.8
③ 試験による不正行為をなくす。	3.0	3.0
④ 欠課オーバーによる科目不認定者を減少させる。	2.6	3.0
⑤ 「よくわかる授業」の実践に心掛ける。	2.8	3.0
⑥ 授業中のマナー指導の徹底(携帯電話・スマートフォンの使用禁止、居眠り)	3.0	2.8
⑦ 授業の視聴覚教材を作成する。	2.7	2.7
⑧ 技能連携校スクーリングの新教材の作成と確認を行う。	2.7	2.7
⑨ 技能連携校におけるスクーリングを効果的に行う。	2.5	2.7
⑩ 総合学習(体験学習)を効果的に行っている。	3.0	3.0

(考察)

・昨年度に比べると評価が若干低くなっている。授業の様子はかなり落ち着いており、私語や居眠りをする生徒はほとんどいない状況である。しかし、なかなか生徒の学力が向上しないことの反省により評価が低い。また、連携校のスクーリングについても年間3日間だが、少しでも受講生徒が満足するような教材に改良しているがなかなか効果が出ていない。総合学習については新しい講座を開講した。

【課題】

- ・学力差が大きいので、全員の生徒を理解させるための工夫をする。
- ・基礎学力がない生徒をどのように指導し学力を上げるかを工夫する。
- ・技能連携校スクーリングの生徒満足度を高める工夫をする。
- ・総合学習の内容を充実させ、進路に結びつけるようにする。

【改善方策】

- ・授業レポート作成の段階で基本的な内容を精選し、できる限り生徒の学力が向上するように工夫する。

- ・視聴覚教材(パワーポイント、動画など)や実験を授業に取り入れ、わかりやすい授業に心がける。
- ・学力向上の補助をするため学び直し講座、進学講座を実施する。
- ・基礎学力がない生徒には特別に課題を与え個別指導を行う。
- ・技能連携校スクーリングを視聴覚授業だけではなく本校教員による対面授業を行う。

(2)生活指導

平均 2.3 (昨年度2.5)

重点目標	教員評価	
	R1	H30
① 登下校時のマナーはしっかりしている。	2.1	2.2
② 校内外の巡視を行い、喫煙防止を図る。	2.1	2.3
③ 車両等による通学者は許可を得てマナーを守り通学している。	2.4	2.5
④ 公共交通機関利用時のマナーとモラルの意識向上を図る。	2.1	2.2
⑤ 交通安全に対する意識を持つように指導している。	2.0	2.2
⑥ 生徒自身に、登校日を正確に把握させ、確実に登校させる。	2.8	3.0
⑦ 健康診断通知配付と共に、治療が必要な生徒に対して治療勧告を配付する。	2.9	2.8

(考察)

- ・生徒の状況を把握する機会は授業および登下校のみである。できる限りその都度状況を確認し指導をするようにしている。しかし、外部からの情報によるとまだまだ指導しなければならない生徒が多いようである。今後はマナーやモラル教育をしっかりと指導する必要がある。また、健康診断後の治療勧告報告書の報告率も高くなってきている。

【課題】

- ・駅、コンビニなどを巡回して本校生徒がバイク、自転車を駐輪しないように指導する。
- ・駅や学校周辺の通学路で喫煙行為がないように、その巡視と指導をする。
- ・公共交通機関利用者が多いので利用マナー指導をする。
- ・自動車およびバイク通学の生徒に対して交通安全指導を実施する。

【改善方策】

- ・公共機関利用者で指導を必要とする生徒については学校連絡をお願いする。
- ・登下校指導、巡視を強化し、現場で注意指導する。
- ・喫煙等の違反生徒には保護者来校をお願いして指導する。また、再三の指導に従えない生徒は進路変更をお願いする。
- ・特別活動等でマナー、モラル教育を行う。
- ・健康診断を行い再検査が必要な生徒は保護者へ文書でお願いする。

(3)進路指導

平均 2.4 (昨年度2.5)

重点目標	教員評価	
	R1	H30
① 進学率を高める努力をしている。	2.3	2.5
② 学校斡旋就職希望生徒の内定率の向上。	2.3	2.5
③ フリーター・ニート等による進路未決定者の減少を目指す。	2.4	2.3
④ 担任が自クラスの進路を把握する。	2.4	2.6
⑤ 愛産大等姉妹校への進学を推奨し、増加を目指す。	2.0	2.3
⑥ 生徒が、能力・適性に合った進路を見つけられる為の面接指導を行う。	2.8	2.8
⑦ 就職説明会、姉妹校説明会への出席を指導する。	2.9	2.5

(考察)

・以前のように進路については卒業だけを考えている生徒は少なくなり、順調に生徒の認識が変わりつつある。しかし、まだまだ卒業後の進路を考える時期が遅いため3年の担任は苦勞している。また、進学指導では姉妹校進学を推奨しているが進学後の退学率も高いので生徒の状況を把握する必要がある。

【課題】

- ・もともと不登校の生徒が多いので無理に勧めることができない。
- ・進学先で退学してしまう生徒もいるので生徒の進路指導が難しい。
- ・3年生になって転入する生徒もいるので進路活動に入る時期がかなり遅い生徒がいる。
- ・進学、就職希望があっても目標が決められない生徒が多い。
- ・就職で内定しても辞退する生徒がいると、今後の企業との関係が悪くなる。
- ・進路に対して真面目に努力しない生徒もいる。

【改善方策】

- ・1、2年次より体験学習などを積極的に参加させ、進路選択の幅を広げる。
- ・姉妹校説明会や愛産大単位取得コースを利用し教育内容を理解してから入学させる。
- ・早い時期に進路調査をもとに個人面談を実施する。
- ・就職・進学の合格率を高めるために模擬面接、小論文指導を行う。
- ・各種説明会(進学、姉妹校、就職説明会など)に早い時期に積極的に参加させる。

(4)生徒相談

平均 2.7 (昨年度2.6)

重点目標	教員評価	
	R1	H30
① 不登校生徒のカウンセリングを促す。	2.8	2.7
② 欠席過多の生徒や不登校気味の生徒への家庭連絡を適切に行う。(家庭との連絡を密にする)	2.7	2.7
③ カウンセリングを実施して、登校率を向上させる。	2.3	2.3
④ 全日制スクールカウンセラーとの連携をとり実施している。	2.8	2.7

(考察)

・午後コースの開設以降不登校であった生徒の入学が増加している。しかし、入学する際には頑張って勉強する気持ちであるが、以前の習慣で不登校になる生徒がいるのが現実である。そのような生徒にどのようなサポートをして登校を再開させるかが重要である。また、社会との関係を閉ざし気味な生徒を通学させ、次のステージに行けるようにサポートすることも手探り状態である。

【課題】

- ・教員が生徒の状況をできるだけ早く把握、理解することが重要である。
- ・不登校気味な生徒は午後コース(少人数クラス)を受講できるようにする。
- ・家庭との連携を密にとり、生徒が登校できる環境をつくる。
- ・午後コースで慣れた生徒は午前コース(生徒数が多い)を受講するように指導する。
- ・カウンセリングを希望する女子生徒が増加傾向である。

【改善方策】

- ・女子生徒が増加傾向にあるので、専任女子教員を配置し、女子生徒が相談にのりやすい環境をつくる。
- ・常駐スクールカウンセラーの時間数を増やす。
- ・障害者手帳を持っている生徒もいるので、保護者との連絡を密にする。
- ・声かけをして話す機会を多くし、教員は信頼を得るように努力する。
- ・不登校に関する講習会に積極的に参加して、教員も生徒対応のスキルを高める。

(5) 生徒募集

平均 2.8 (昨年度2.9)

重点目標	教員評価	
	R1	H30
① 年間目標入学者数を確保する努力をしている。	3.0	3.0
② 入学相談者に対する入学率を向上させる。	2.9	3.0
③ 学校説明会を計画的・効果的に実施する。	3.0	3.0
④ 学校説明会参加人数が昨年を上回るよう努力する。	2.6	2.7
⑤ 退学者数を少なくする努力をしている。	2.7	2.8
⑥ 在籍数の多い高校を訪問して、現況報告する。	2.7	2.8
⑦ 業者による合同説明会に参加して、入学者数増に努める。	2.8	2.8

(考察)

・定員120名のところ昨年度は180名以上の生徒が入学している。喜ばしいことではあるが、入学者は今後さらに増加する傾向であるので、定員数の見直しをして教室や教員数も検討する必要がある。また、継続して募集活動を行い、本校の教育内容を正しく理解して入学して頂くようにする。

【課題】

- ・狭域制であるので地元の中学校、高校に本校の教育内容を理解して生徒の推薦をお願いする。
- ・校外の学校説明会への効果的な参加を検討する。
- ・新たな広報媒体を検討する。
- ・入学者増加にともなう受け入れ体制の検討をする。

【改善方策】

- ・入学生徒の前籍校に生徒の状況を詳しく説明し、今後も転入学生徒推薦をお願いする。
- ・入学した生徒が何を望んでいるかをリサーチして改善する。
- ・本校の教育内容、教育方針などをPRし、広域制通信制高校との違いを理解して頂く。
- ・入学生増加に対応する教室、講座数、教員数、学則定員の検討をする。

(6)総務

平均 2.5 (昨年度2.6)

重 点 目 標	教員評価	
	R 1	H 30
① ホームページの更新は時宜を得て行う。	2.1	2.3
② ホームページの資料請求・学校説明会の申し込みを増加させる。	2.3	2.2
③ 学校の情報を「メール発信システム」で適切に提供する。	2.6	2.7
④ 学校説明会の案内を効果的に配付する。	2.9	3.0

(考察)

- ・昨年度とほぼ同じ評価である。学校の顔であるホームページがリニューアル時には目新しいため更新等がリアルタイムできていたが、徐々に遅れがちになり新しい情報が更新されていない状況である。しかし、検索する側にとっては新しい情報が知りたいのが当然である。

【課題】

- ・ホームページの内容が常に新しい情報になっていない。
- ・「メール発信システム」の生徒登録をしていない生徒がいる。
- ・本校の教育内容を正しく理解されていない中学校教員がいる。

【改善方策】

- ・Google、yahooの検索広告を利用してホームページアクセス数の向上をはかる。
- ・ホームページの内容(新しい情報の更新)を全教員でリアルタイムに更新する。
- ・中学校へ訪問し、不登校気味な生徒に直接説明できる機会をお願いする。

(7)校務

平均 2.4 (昨年度2.4)

重点目標	教員評価	
	R1	H30
① 校外における美化活動を行っている。	2.6	2.3
② 環境整備に気を配り、ゴミを減少させる。	2.6	2.5
③ 省エネを推進し、エネルギー委員会の目標値「前年度比で1%」 となるように努力し、意識の高揚を図る。	2.6	2.3
④ 日直を中心とした校内整備を行う。	2.1	2.5
⑤ 各階担当者・教室管理者による教室整備と校内美化に努める。	2.3	2.3

(考察)

・教員ができる美化活動、校舎整備等は行ったが、教員ではできない大規模な校舎、設備の修繕ができていない。長期的計画を立て実施する必要がある。また、先生方の省エネに対する意識はあまりないので具体的な方策が必要である。

【課題】

- ・連携校スクーリングで単位制校舎を利用する機会が増えているので教室機器の整備が必要である。
- ・校舎外壁等老朽化がはげしく、費用の予算化が必要である。
- ・校内の破損箇所や機器の故障が多く、修理箇所も増加している。
- ・教員一人一人に省エネに対する意識の向上をさせる。

【改善方策】

- ・長期計画により校舎外壁塗り替え、老朽化した机椅子を買い換える。
- ・教室担当者が責任をもって冷暖房機器や照明器具の省エネに努める。
- ・生徒にゴミ等を出さないように飲食禁止を徹底させる。
- ・教室の担当教員が自クラスの美化活動、節電を実践する。
- ・授業がない時期を利用して職員自ら修繕できることを行う。

(8)事務関係

平均 2.5 (昨年度2.5)

重点目標	教員評価	
	R1	H30
① 業務の効率化を図り、残業ゼロを目指す。	2.4	2.3
② 職員室の基幹データと共有し、データの一元管理を目指す。	2.4	2.3
③ 電話等の対応を適切に行う。	2.5	2.8
④ 入学相談等、入学に関わる事務を適切に行う。	2.6	2.8
⑤ 就学支援金事務作業を円滑に行う。	2.4	2.2

(考察)

- ・教務の効率化(電算化)を図りながら事務処理を行っているが、連携校も含めると在籍数1600名程度の生徒の管理をしているので2名の事務職員(1名派遣)では不十分である。また、現在、本校の生徒も増加傾向にあるので教務事務も増えている。教務データの電算化は進めているが、まだ教務データや指導要録等の書類は手書きであり、在籍証明、成績証明等の書類発行は非常に効率が悪い。早急に改善する必要がある。

【課題】

- ・教務データの電算化を完成させる。
- ・事務職員の多忙の時期が集中する。
- ・連携校と単位制の生徒の両方を教務管理しなければならないので煩雑になる。
- ・事務責任者は単位制校舎に常駐していない。

【改善方策】

- ・事務職員の多忙時期は教職員が手伝う。また、事務職員の増員をする。
- ・連携校7校(在籍1300名程度)の事務処理と本校単位制(在籍300名程度)事務処理を分けて行う。
- ・現在継続中の電算化を早急に完成させるように検討する。
- ・電話等の対応はできる限り教員が行う。

IV 本年度の具体的な取り組み

- ・単位制校舎によるカウンセリング実施(スクールカウンセリング常駐)
- ・体験学習講座新設(自衛隊体験・トリミング体験)
- ・連携校スクーリング単位制校舎実施(名古屋情報専門学校を除く)
- ・連携校スクーリングの対面授業の実施
- ・校外学校説明会の実施回数増加
- ・連携校スクーリング単位制校舎実施のため教室設備充実(暗幕カーテン設置)

V 来年度の具体的な取り組み予定

- ・連携校スクーリング単位制校舎実施(7校すべて)
- ・体験学習講座新設(教養脳トレーニング)
- ・進学のための奨学金制度説明会の実施
- ・校舎外美化活動(樹木の伐採等)
- ・視聴覚機器の充実(プロジェクター等)
- ・新パンフレット、新学校紹介動画作成
- ・掲示板の増設

VI 重点目標の達成に対する考察

全体的な目標の達成についての評価は遅れ気味なところが多く、改善すべきことを明らかにして来年度につなげていきたい。特に事務処理関係で電算化が遅れ気味であり生徒数が増加傾向にあるため急を要するところである。

5年前から取り組んだ新しい教育内容を検証し、現在の生徒、保護者のニーズに即した教育内容に修正改善を行い、三河地区の生徒に望まれる単位制高校にしていきたい。また、それによりさらなる生徒募集の拡大をめざす。

VII 生徒アンケート結果の総合考察

本年度は121名の生徒からアンケートを実施した。項目ごとの考察については集計結果参照。本校は転学、編入の生徒が半数以上在籍しているので高校資格を得ることができれば多くを望まない生徒が多い。しかし、数年前から進路指導に力を入れ始めてからは本校に期待することが多くなって来ている。生徒の評価が今年度は低めであるのはその表れである。今後は生徒がどのような高校生活を望んでいるかをリサーチし、生徒の将来のために新しい教育内容を考える必要がある。

VIII 保護者アンケート結果の総合考察

本年度は96名の保護者からアンケートを実施した。ほぼ例年通りの結果であるが、昨年度よりは本校に対する期待度が増して少々辛口な結果であった。本校はあまり生徒に関心がない保護者、不登校で毎日送迎をする保護者など2極化している。最近では以前不登校の生徒が増えているので保護者が本校に期待することが増えた結果と考える。期待している保護者の要望から学び直し講座、進学講座を新設した。今後も保護者の意見に耳を傾けながら生徒のためになるものであれば検討をしていきたい。

IX 今後の方向性

本校通信制課程単位制

本校は通学型の狭域制通信制高等学校として、通学しなくてもよいことをPRする広域制通信制高等学校との差別化を図る。高校資格を取得するだけでなく、生徒に社会へ出るための付加価値を付けて就職をさせたり、上級学校(大学、専門学校)へ行かせることを目標とする。

中学、高校で不登校生徒のための午後コースも増加傾向であり、また、年齢が40、50歳代の生徒も若干名入学し学校の雰囲気も変化している。このようないろいろな希望を持った生徒に対して教育を行うことは決して簡単ではないが手探り状態で行うしかない。また、生徒数が入学者186名と定員120名を遙かに超えてしまっているため、教室の増設、教員の増員が急務である。

長期的な目標

・就職に直結する講座の新設

開講例 英会話・留学講座 電気工事士資格取得講座 情報処理資格取得講座
危険物取扱資格取得講座 公務員試験合格講座 メイク・ネイル講座など

・新コースの設置

大学受験をめざす生徒に対して新しいカリキュラムで授業を行う。

・進路指導室の新設

・校外社会研修

技能連携校(7校)

来年度よりスクーリングはすべて単位制校舎で行う。また、本年度から開始した対面授業(本校教員によりライブ授業)は高評で順次増やしていく予定である。また、技能連携校を希望する新たな専門学校もあり、さらにスクーリング回数が増加することが予定される。

来年度より愛知県内の技能連携している専修学校高等課程生徒に対する授業料軽減補助金が始まり、本校に技能連携校を希望する専修学校高等課程が増えることが予想される。

以上